午前　日本陶器名古屋工場見學
安藤七寶製作所見學
午餐
午後　三菱重工業航空機工場見學
其他觀光
晩餐

十二月六日（土）　名古屋
愛知縣農事試驗場見學
安城村農地見學

十二月七日（日）　名古屋－東京
午前一一、五五　名古屋發
午後　五二〇　東京着

十二月八日（月）　東京
自由

十二月　九日（火）　東京－助川－東京

午前　東京發

助川着

日立製作所見學

助川發

東京着

十二月　十日（水）　東京

自由

秘

壱第五四四號
共一

調五秘合第四二七四號

昭和十六年十一月十二日

外務次官

陸軍次官殿

智國新聞記者ニ便宜供與方依頼ノ件

本件ニ關シ客月廿日附調五秘合第四〇二一號ヲ以テ御依頼申進致置タル處都合ニ依リ工場見學日程ヲ左記ノ通變更致タルニ付テハ右變更許可方特ニ御配意相煩度別添日程表一部相添ヘ此段御依頼申進ス

記

十一月廿一日（金）午後　八幡製鐵所

同　〃　〃　日本水産戸畑工場

別添附

陸軍省 昭和16.11.13 大臣官房

陸軍省 16.11.13 軍務課

外務省

（日本標準規格B5）

11.17

十一月廿四日（月）午前　大同燐寸入江工場

同　　　　　　　午後　川崎製船所

十一月廿六日（水）午前　住友金屬工業大阪工場

同　　　　　　　午後　鐘紡浣川工場

十二月四日（木）午後　三菱重工業航空機工場

十二月八日（月）午後　日立製作所

本信送付先　陸軍省、海軍省

外務省

（日本標準規格B5）

訪日智國新聞記者團内地視察日程案 一

十一月廿一日（金）門司－八幡－戸畑－下關

午前一〇、三〇 門司發

一一、〇九 八幡着

八幡製作所見學

午後二、三三 八幡發

二、四三 戸畑着

三、〇〇 日本水産戸畑工場見學

四、四三 戸畑發

五、一〇 門司着

五、四〇 下關着（山陽ホテル投宿）

十一月廿二日（土）下關－神戸

午前九、二五 下關發

午後七、二四 三宮着（オリエンタル・ホテル投宿）

十一月廿三日（日）　神戸

自由

十一月廿四日（月）　神戸

午前　縣知事訪問

市長訪問

大同燐寸入江工場見學

午餐

午後　川崎製船所見學

其他觀光

晩餐

十一月廿五日（火）　神戸－大阪

午前一〇、一三　神戸（三宮驛）發

一〇、四八　大阪着（新大阪ホテル投宿）

府知事訪問

午後　市長訪問

午餐

大阪朝日及大阪毎日新聞社訪問

晩餐

十一月廿六日（水）　大阪

午前　住友金屬工業大阪工場見學

午餐

午後　鐘紡淀川工場見學

晩餐

十一月廿七日（木）　大阪

自由觀光

午餐

寶塚レビュー

人形芝居（文樂）等見學

十一月廿八日（金）　大阪－奈良

午前一〇、〇一　湊町發

一〇、四七　奈良着（奈良ホテル投宿）

午後　一、二六　奈良發

二、二〇　畝傍着

橿原神宮參拝

四〇五　畝傍發

四四五　奈良着

晩餐

十一月廿九日（土）　奈良
市内観光
午餐

十一月三十日（日）　奈良―京都
午前一〇、三三　奈良發
一一、四一　京都着（都ホテル投宿）
自由

十二月一日（月）　京都
午前　九、三〇　京都御所拜観
午前一〇、〇〇　平安神宮參拜
一〇、三〇　府知事及市長訪問
午餐
午後　二、〇〇　元離宮二條城拜観
三、〇〇　名蹟見物
晩餐

十二月　二日（火）　京都

午前一〇、〇〇　川島西陣織物工場見學

一一、〇〇　武德會

午餐

午後　市內外觀光

晩餐

十二月　三日（水）　京都ー名古屋

午前　八、四九　京都發

一一、四六　名古屋着（觀光ホテル投宿）

午餐

午後　縣知事及市長訪問

新聞社訪問

晩餐

十二月　四日（木）　名古屋

午前　日本陶器名古屋工場見學
安藤七寶製作所見學
午餐
午後　三菱重工業航空機工場見學
其他觀光
晩餐

十二月五日（金）　名古屋
愛知縣農事試驗場見學
安城村農地見學

十二月六日（土）　名古屋－東京
午前一一、五五　名古屋發
午後　五、二〇　東京着

十二月七日（日）　東京
自由

7

十二月八日（月）　東京―日立―東京

午前　九、一〇　上野發

一二、一五　大甕着　日立製作所倶樂部にて午餐

日立製作所見學

午後　三、三二　日立發

七、一五　上野着

十二月九日（火）　東京

自由

様式第四

陸軍兵器本部經由第九九四號 昭和16年12月5日

工場監督官認印

外國人當工場參觀實施狀況ノ報告

陸軍兵器本部經由

福岡縣八幡市
日本製鉄株式會社 八幡製鉄所
代表者 所長 澁澤正雄

昭和十六年十一月廿二日

陸軍大臣 東條英機 殿

昭和十六年十一月十四日附陸普第八四〇二號ヲ以テ御許可相承ケ候首題ノ件左記ノ通リ實施セシメ候條此段及御報告候也

左記

一、參觀ノ日時 昭和十六年十一月廿一日 自午后一時十五分 至仝 二時五分

二、參觀者ノ國籍、身分又ハ職業、氏名	エル・ディアリオ・イルスツラード紙副社長 ロドリゴ・アブルト外五名
三、見學セシ工場名（詳細ニ）	洞岡第一熔鑛爐、新第一製鋼、第六分塊、第二厚板工場
四、案内者若ハ説明者ノ身分又ハ職業、氏名	八幡製鐵所技師 水田 豪 八幡製鐵所書記補 齋藤喜一
五、立會者ノ身分又ハ職業、氏名	陸軍監督官陸軍兵技中尉 野村勉二 小倉憲兵分隊八幡分遣隊陸軍憲兵伍長 御厨金治
六、參觀者ノ著眼及應答事項	製鐵作業ノ平易ナル説明ヲ聽キ縱覽シタルノミニテ著眼應答事項ナシ
七、感想	製鐵事業ニハ全ク認識ナク製鐵作業見學モ始ニテ規模ノ宏大ナルニハ驚キタリト洩シ居タリ
八、其ノ他參考事項（來訪ノ經路及行先等）	福岡市ヨリ午前十時五十分來所晝食後午後一時十五分所内見學午後二時五分戸畑市日本水産株式會社西部營業所ニ向フ

住金屬機密第一六ノ一九二二號

昭和十六年十二月一日

大阪市此花區島屋町參拾七番地
住友金屬工業株式會社
社長　春日　弘

陸軍大臣　東條英機　殿

智利國訪日新聞記者エル・ディアリオ・イルスツラード紙副社長ロドリゴ・アブルト氏外四名弊社工場見學狀況報告ノ件

拜啓昭和十六年十一月廿六日智利國エル・ディアリオ・イルスツラード紙副社長ロドリゴ・アブルト氏外四名弊社工場見學致候ニ付テハ右狀況別紙ノ通御報告申上候間御高覽被成下度願上候

敬具

航空總監部 16.12.8. 受付

12.10

外國人工場參觀報告

項目	内容
國籍	智利國
人名	訪日智利國新聞記者 一、エル・ディアリオ・イルスツラード紙(El Diario Ilustrado) 副社長 ロドリゴ・アブルト (Rodrigo Aburto) 二、ラ・ナシオン紙 (La Nacion) 編輯長 ホルヘ・ヴイアル・ジヨンス(Jorge Vial Jones) 三、ラ・オーラ紙 (La Hora) 記者 マリオ・プラネ (Mario Planet) 四、エル・チレノ紙 (El Chileno) 記者 カルロス・バリー・シルヴア (Carlos, Barry Silvr) 五、エル・インパルシアル紙 (El Imparcial) 記者 グスタヴオ・ラバルカ (Gustavo Labarca)
見學年月日時間及工場名	昭和十六年十一月廿六日 自午前十時〇〇分 至〃十時四五分 本店へ來社 本店ヲ退出製鋼所へ 自午前十時五〇分 至〃十一時三五分 製鋼所着 仝所退出歸還 製鋼所 鍛鋼工場、外輪工場、第一車輪工場、製品工場
見學ノ目的	我國並ニ東亞ノ實情視察研究ノ目的ヲ以テ來朝シ重工業方面トシテ當社ヲモ見學セルモノナリ
体格及外觀上ノ特徴	特記スベキ特徴ナシ
軍事能力ノ程度並ニ特有ノ技能及性格ノ概要	不詳
見學中ニ於ケル擧動着眼及一般ノ状況	一、午前十時本店ニ來社直チニ三階別室ニ案内レモンティーヲ供ス 久島常務取締役ヨリ會社概要ニ付説明ス。終ッテ外務省紬川書記官ニヨリ右通譯セラレタリ 質問事項 (於本店) 1、問、貴社ニ於テハ幾名位ノ工員就業シ居ルヤ 答 回答セズ 2、問 貴社ヨリチリー國ヘ出張セラレタル方アリヤ 答 ナシ 3、問 貴社製品ガ直接チリー國ヘ輸出セラレオルヤ 答 直接輸出セズ但シ部分品トシテ三井三菱ヲ通ジ貴國ヘ輸出セラレオルヤモ知レズ、尚今後國際關係ガ平常ニ

項目	內容
見學年月日	至〃十時四五分 本店[illegible]
時間及工場名	自午前十時五〇分 製鋼所着 至〃十一時三五分 仝所退出歸還 製鋼所 鑄鋼工場、外輪工場、第一車輪工場、製品工場
見學ノ目的	我國並ニ東亞ノ實情視察研究ノ目的ヲ以テ來朝シ重工業方面トシテ當社ヲモ見學セルモノナリ
体格及外觀上ノ特徴	特記スベキ特徴ナシ
軍事能力ノ程度並ニ特有ノ技能及性格ノ概要	不詳
見學中ニ於ケル擧動着眼及一般ノ狀況	一、午前十時本店ニ來社直チニ三階別室ニ案內レモンティーヲ供ス 久島常務取締役ヨリ會社概要ニ付說明ス。終ツテ外務省細川書記官ニヨリ右通譯セラレタリ 質問事項（於本店） 1、問、貴社ニ於テハ幾名位ノ工員就業シ居ルヤ 答 回答セズ 2、問 貴社ヨリチリー國ヘ出張セラレタル方アリヤ 答 ナシ 3、問 貴社製品ガ直接チリー國ヘ輸出セラレオルヤ 答 直接輸出セズ但シ部分品トシテ三井三菱ヲ通ジ貴國ヘ輸出セラレオルヤモ知レズ、尚今後國際關係ガ平常ニ復セバ當社製品モ相當貴國ヘ輸出セラル、事ト思フ 4、問 チリー國ヨリ鑛石類ヲ相當輸出シ居ルモ貴社ハ使ハレ居ルヤ 答 使ヒ居ラズ 二、擧動其他特記スベキ事項ナシ 三、工場案內者 製鋼所 川本所長、柳澤副所長、森檢查部長、荒木製造部副長、小川業務部長代理者
日本語修得ノ程度並對日感情	一、二名挨拶上ノ平易ナル單語ヲ使用シ居レリ 對日感情良好ニ見受ケラレタリ
其ノ他參考トナルベキ事項	

住金屬機密第一六ノ一九一二號

昭和十六年十二月一日

大阪市此花區島屋町參拾七番地
住友金屬工業株式會社
社長　春日　弘

陸軍大臣　東條英機殿

智利國訪日新聞記者エル・デイアリオ・イルスツラード紙副社長ロドリゴ・アプルト氏外四名弊社工場見學狀況報告ノ件

拜啓昭和十六年十一月廿六日智利國エル・デイアリオ・イルスツラード紙副社長ロドリゴ・アプルト氏外四名弊社工場見學致候ニ付テハ右狀況別紙ノ通御報告申上候間御高覽被成下度願上候

敬具

大阪監督班　經由第二〇九七號　昭和　年　月　日

大阪在勤監督班　昭和16.12.2　經由第4131號

外國人工場參觀報告

國籍　智利國

人名
訪日智利國新聞記者
一、エル・ディアリオ・イルスツラード紙(El Diario Ilustrado)
　副社長　ロドリゴ・アブルト (Rodrigo Aburto)
二、ラ・ナシオン紙 (La Nacion)
　編輯長　ホルヘ・ヴイアル・ジヨンス(Jorge Vial Jones)
三、ラ・オーラ紙 (La Hora)
　記者　マリオ・プラネ (Mario Planet)
四、エル・チレノ紙 (El Chileno)
　記者　カルロス・バリー・シルヴア(Carlos, Barry Silvr)
五、エル・インパルシアル紙 (El Imparcial)
　記者　グスタヴオ・ラバルカ (Gustavo Labarca)

見學年月日時間及工場名
昭和十六年十一月廿六日
自午前十時〇〇分　本店へ來社
至〃十時四五分　本店ヲ退出製鋼所へ
自午前十時五〇分　製鋼所着
至〃十一時三五分、仝所退出歸還
製鋼所
　製鋼工場、外輪工場、第一車輪工場、製品工場

見學ノ目的
我國並ニ東亞ノ實情視察研究ノ目的ヲ以テ來朝シ重工業方面トシテ當社ヲモ見學セルモノナリ

体格及外觀上ノ特徴
特記スベキ特徴ナシ

軍事能力ノ程度並ニ特有ノ技能及性格ノ概要
不詳

見學中ニ於ケル擧動着眼及一般ノ状況
一、午前十時本店ニ來社直チニ三階別室ニ案内レモンテイーヲ供ス
久島常務取締役ヨリ會社概要ニ付説明ス。終ツテ外務省絲川書記官ニヨリ右通譯セラレタリ

質問事項（於本店）

1、問、貴社ニ於テハ幾名位ノ工員就業シ居ルヤ
答　回答セズ

2、問　貴社ヨリチリー國ヘ出張セラレタル方アリヤ
答　ナシ

3、問　貴社製品ガ直接チリー國ヘ輸出セラレオルヤ
答　直接輸出セズ但シ部分品トシテ三井三菱ヲ通ジ貴國ヘ輸出セラレオルヤモ知レズ、尚今後國際關係ガ平常ニ復セバ當社製品モ相當貴國ヘ輸出セ

砲銃工場、外輪工場、第一車輪工場、製品工場

見學ノ目的	我國並ニ東亞ノ實情視察研究ノ目的ヲ以テ來朝シ重工業方面トシテ當社ヲモ見學セルモノナリ
体格及外觀上ノ特徴	特記スベキ特徴ナシ
軍事能力ノ程度並ニ特有ノ技能及性格ノ概要	不詳
見學中ニ於ケル擧動着眼及一般ノ狀況	一、午前十時本店ニ來社直チニ三階別室ニ案內レモンテイーヲ供ス 久島常務取締役ヨリ會社概要ニ付說明ス。終ツテ外務省鈴川書記官ニヨリ右通譯セラレタリ 質問事項（於本店） 1、問、貴社ニ於テハ幾名位ノ工員就業シ居ルヤ 答 回答セズ 2、問 貴社ヨリチリー國ヘ出張セラレタル方アリヤ 答 ナシ 3、問 貴社製品ガ直接チリー國ヘ輸出セラレオルヤ 答 直接輸出セズ但シ部分品トシテ三井三菱ヲ通ジ貴國ヘ輸出セラレオルヤモ知レズ、尙今後國際關係ガ平常ニ復セバ當社製品モ相當貴國ヘ輸出セラル、事ト思フ 4、問 チリー國ヨリ鑛石類ヲ相當輸出シ居ルモ貴社ハ使ハレ居ルヤ 答 使ヒ居ラズ 二、擧動其他特記スベキ事項ナシ 三、工場案內者 製鋼所 川本所長、柳澤副所長、森檢查部長、荒木製造部副長、小川業務部長代理者
日本語修得ノ程度並對日感情	一、二名挨拶上ノ平易ナル單語ヲ使用シ居レリ 對日感情良好ニ見受ケラレタリ
其ノ他參考トナルベキ事項	

住金屬[illegible]第一[illegible]ノ一[illegible]二號

昭和十六年十二月一日

[illegible]參拾七番地
住友金屬工業株式會社
社長 春日 弘

陸軍大臣 東條英機 殿

智利國訪日新聞記者エル・ディアリオ・イルスツラード紙副社長ロドリゴ・アブルト氏外四名弊社工場見學狀況報告ノ件

拜啓昭和十六年十一月廿六日智利國エル・ディアリオ・イルスツラード紙副社長ロドリゴ・アブルト氏外四名弊社工場見學致候ニ付テハ右狀況別紙ノ通御報告申上候間御高覽被成下度願上候

敬具

大阪監督班 昭和 年 月 日 經由第[illegible]號

大阪監督班在勤所 昭和16.12.2 經由第4131號

外國人工場參觀報告

國籍	智利國
人名	訪日智利國新聞記者 一、エル・ディアリオ・イルスツラード紙(El Diario Ilustrado) 副社長 ロドリゴ・アブルト (Rodrigo Aburto) 二、ラ・ナシオン紙 (La Nacion) 編輯長 ホルヘ・ヴイアル・ジョンス (Jorge Vial Jones) 三、ラ・オーラ紙 (La Hora) 記者 マリオ・プラネ (Mario Planet) 四、エル・チレノ紙 (El Chileno) 記者 カルロス・バリー・シルヴア (Carlos, Barry Silvr) 五、エル・インパルシアル紙 (El Imparcial) 記者 グスタヴオ・ラバルカ (Gustavo Labarca)
見學年月日 時間及工場名	昭和十六年十一月廿六日 自午前十時〇〇分 本店ヘ來社 至〃十時四五分 本店ヲ退出製鋼所ヘ 自午前十時五〇分 製鋼所着 至〃十一時三五分 仝所退出歸還 製鋼所 製鋼工場、外輪工場、第一車輪工場、製品工場
見學ノ目的	我國並ニ東亞ノ實情視察研究ノ目的ヲ以テ來朝シ重工業方面トシテ當社ヲモ見學セルモノナリ
体格及外觀上ノ特徴	特記スベキ特徴ナシ
軍事能力ノ程度並ニ特有ノ技能及性格概要	不詳
見學中ニ於ケル擧動着眼及一般ノ状況	一、午前十時本店ニ來社直チニ三階別室ニ案内レモンテイーヲ供ス久島常務取締役ヨリ會社概要ニ付説明ス。終ッテ外務省給川書記官ニヨリ右通譯セラレタリ 質問事項（於本店） 1、問、貴社ニ於テハ幾名位ノ工員就業シ居ルヤ 答 回答セズ 2、問 貴社ヨリチリー國ヘ出張セラレタル方アリヤ 答 ナシ 3、問 貴社製品ガ直接チリー國ヘ輸出セラレオルヤ 答 直接輸出セズ但シ部分品トシテ三井三菱ヲ通ジ貴國ヘ輸出セラレオルヤモ知レズ、尚今後國際關係ガ平常ニ復セバ當社製品モ相當貴國ヘ輸出セ

時間及工場名	至 ・十一時三五分 全所退出歸還 製鋼所 砲鋼工場、外輪工場、第一車輪工場、製品工場
見學ノ目的	我國並ニ東亞ノ實情視察研究ノ目的ヲ以テ來朝シ重工業方面トシテ當社ヲモ見學セルモノナリ
体格及外觀上ノ特徴	特記スベキ特徴ナシ
軍事能力ノ程度並ニ特有ノ技能及性格ノ要約	不詳
見學中ニ於ケル擧動着眼及一般ノ状況	一、午前十時本店ニ來社直チニ三階別室ニ案内レモンテイーヲ供ス 久島常務取締役ヨリ會社概要ニ付説明ス・終ツテ外務省細川書記官ニヨリ右通譯セラレタリ 質問事項（於本店） 1、問、貴社ニ於テハ幾名位ノ工員就業シ居ルヤ 答 回答セズ 2、問 貴社ヨリチリー國ヘ出張セラレタル方アリヤ 答 ナシ 3、問 貴社製品ガ直接チリー國ヘ輸出セラレオルヤ 答 直接輸出セズ但シ部分品トシテ三井三菱ヲ通ジ貴國ヘ輸出セラレオルヤモ知レズ、尚今後國際關係ガ平常ニ復セバ當社製品モ相當貴國ヘ輸出セラル、事ト思フ 4、問 チリー國ヨリ鑛石類ヲ相當輸出シ居ルモ貴社ハ使ハレ居ルヤ 答 使ヒ居ラズ 二、擧動其他特記スベキ事項ナシ 三、工場案内者 製鋼所 川本所長、柳澤副所長、森検査部長、 荒木製造部副長、小川業務部長代理者
日本語修得ノ程度並對日感情	一、二名挨拶上ノ平易ナル單語ヲ使用シ居レリ 對日感情良好ニ見受ケラレタリ
其ノ他參考トナルベキ事項	

住金屬機密第一六ノ一九二二號

昭和十六年十二月一日

大阪市此花區島屋町參拾七番地
住友金屬工業株式會社
社長 春日弘

陸軍大臣 東條英機 殿

智利國訪日新聞記者エル・デイアリオ・イルスツラード紙副社長ロドリゴ・アブルト氏外四名弊社工場見學狀況報告ノ件

拜啓昭和十六年十一月廿六日智利國エル・デイアリオ・イルスツラード紙副社長ロドリゴ・アブルト氏外四名弊社工場見學致候ニ付テハ右狀況別紙ノ通御報告申上候間御高覽被成下度願上候

敬具

大阪監督班 經由第 號 昭和 年 月 日
大阪監督班在島所 昭和16.12.2 經由第4131號

外國人工場參觀報告

國籍	智利國
人名	訪日智利國新聞記者 一、エル・ディアリオ・イルスツラード紙(El Diario Ilustrado) 副社長　ロドリゴ・アブルト (Rodrigo Aburto) 二、ラ・ナシオン紙 (La Nacion) 編輯長　ホルヘ・ヴイアル・ジョンス (Jorge Vial Jones) 三、ラ・オーラ紙 (La Hora) 記者　マリオ・プラネ (Mario Planet) 四、エル・チレノ紙 (El Chileno) 記者　カルロス・バリー・シルヴア (Carlos, Barry Silvr) 五、エル・インパルシアル紙 (El Imparcial) 記者　グスタヴオ・ラバルカ (Gustavo Labarca)
見學年月日 時間及工場名	昭和十六年十一月廿六日 自午前十時〇〇分　本店ヘ來社 至 〃 十時四五分　本店ヲ退出製鋼所ヘ 自午前十時五〇分　製鋼所着 至 〃 十一時三五分　仝所退出歸還 製鋼所 鍛鋼工場、外輪工場、第一車輪工場、製品工場
見學ノ目的	我國並ニ東亜ノ實情視察研究ノ目的ヲ以テ來朝シ重工業方面トシテ當社ヲモ見學セルモノナリ
体格及外觀上ノ特徴	特記スベキ特徴ナシ
軍事能力ノ程度並ニ特有ノ技能及性格ノ概要	不詳
見學中ニ於ケル擧動着眼及一般ノ状況	一、午前十時本店ニ來社直チニ三階別室ニ案内レモンティーヲ供ス久島常務取締役ヨリ會社概要ニ付説明ス・終ツテ外務省細川書記官ニヨリ右通譯セラレタリ 質問事項（於本店） 1、問、貴社ニ於テハ幾名位ノ工員就業シ居ルヤ 答　回答セズ 2、問　貴社ヨリチリー國ヘ出張セラレタル方アリヤ 答　ナシ 3、問　貴社製品ガ直接チリー國ヘ輸出セラレオルヤ 答　直接輸出セズ但シ部分品トシテ三井三菱ヲ通ジ貴國ヘ輸出セラレオルヤモ知レズ、尚今後國際關係ガ平常ニ復セバ當社製品モ相當貴國ヘ輸出セラル、事ト思フ

	製鋼所 磁鋼工場、外輪工場、第一車輪工場、製品工場
見學ノ目的	我國並ニ東亞ノ實情視察研究ノ目的ヲ以テ來朝シ重工業方面トシテ當社ヲモ見學セルモノナリ
体格及外觀上ノ特徴	特記スベキ特徴ナシ
軍事能力ノ程度並ニ特有ノ技能及性格ノ概要	不詳
見學中ニ於ケル擧動着眼及一般ノ状況	一、午前十時本店ニ來社直チニ三階別室ニ案内レモンテイーヲ供ス 久島常務取締役ヨリ會社概要ニ付説明ス。終ツテ外務省綿川書記官ニヨリ右通譯セラレタリ 質問事項（於本店） 1、問、貴社ニ於テハ幾名位ノ工員就業シ居ルヤ 答 回答セズ 2、問 貴社ヨリチリー國へ出張セラレタル方アリヤ 答 ナシ 3、問 貴社製品ガ直接チリー國へ輸出セラレオルヤ 答 直接輸出セズ但シ部分品トシテ三井三菱ヲ通ジ貴國へ輸出セラレオルヤモ知レズ、尚今後國際關係ガ平常ニ復セバ當社製品モ相當貴國へ輸出セラルヽ事ト思フ 4、問 チリー國ヨリ鐵石類ヲ相當輸出シ居ルモ貴社ハ使ハレ居ルヤ 答 使ヒ居ラズ 二、擧動其他特記スベキ事項ナシ 三、工場案内者 製鋼所 川本所長、柳澤副所長、森檢査部長、 荒木製造部副長、小川業務部長代理者
日本語修得ノ程度並對日感情	一、二名挨拶上ノ平易ナル單語ヲ使用シ居レリ 對日感情良好ニ見受ケラレタリ
其ノ他參考トナルベキ事項	

第三〇號
昭和16年12月17日
原簿記帳済
受領證送付濟
十二月二十日
拾年保
陸軍省受領 壹第七三七〇號
16.12.10 前午 大臣官房
陸軍省 昭和16.12.10 文書課

大日本帝國政府

文收第一八二號
昭和十六年十二月八日

厚生大臣官房文書課長

陸軍省機密文書取扱主任官　殿

機密文書配布ノ件

當省調製ニ係ル左記機密文書別便ヲ以テ及送付候條御査收相成度

記

昭和十六年三月三十一日現在
國及道府縣勞務動態調査結果報告

文書番號　厚機職第四號
一連番號　四七

整備局長へ配布ス
野村

第三一一號

保存	決裁指定	決行指定
三年	局長	

受領番號	壹第六三〇號
件名	鑛山統制會ニ関スル件回答
起元庁(課)名	戰備課
政務次官 參與官 回付	決裁前後
決行(決裁)後回覽課名	

主務局課 番號	受領	提出
整戰課第七四號	昭和十六年十二月拾七日	昭和十六年十二月拾七日

大臣官房 受領	結了
昭和 年 十二月十八日	昭和 年 十二月二十日

大臣 安

次官 安

拾年保存

陸軍

（陸支普）次官ヨリ商工次官宛

一六鑛~~發~~第三七一三號ニ依ル協議ノ件異存無之

此段及回答候也

陸支普第二九一一號

昭和拾六年十二月拾八日

吉田

添附書類ノ十

鑛山統制會定款（案）

第一章　總則

第一條　本會ハ本邦ニ於ケル鑛産物（石炭、亜炭、石油及土瀝青ヲ除ク以下同ジ）ノ生産及販賣ニ關スル事業（鐵鑛、ニッケル鑛、アルミニウム及マグネシウムノ製錬及販賣ニ關スル事業並ニ鐵鑛ノ販賣ニ關スル事業ヲ除ク）ノ綜合的統制運營ヲ圖リ且當該産業ニ關スル國策ノ立案及遂行ニ協力スルコトヲ目的トス

第二條　本會ハ重要産業團體令ニ依リ設立シ鑛山統制會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ東京市ニ置キ必要ニ應ジ支部又ハ出張所ヲ設ク

第四條　本會ハ第一條ノ事業ヲ營ム者及其ノ組織スル團體ニシテ商工大臣ノ指定シタルモノヲ以テ組織ス

第五條　本會ハ會員ニ對シ經費ヲ賦課ス

本會ハ本會ノ事業ヲ行フ為特ニ必要アルトキハ商工大臣ノ認可ヲ受ケ會員ノ全部又ハ一部ニ對シ前項ノ規定ニ依ル賦課金ノ外特別ノ賦課金ヲ課

ス

第六條　本會ノ公告ハ官報ヲ以テ之ヲ為ス

第二章　事業

第七條　本會ハ第一條ノ目的ヲ達成スル為左ノ事項ニ付必要ナル事業ヲ行フ

一、鑛産資源開發計畫ノ設定及遂行ニ關スル事項

二、鑛産物ノ生産及配給計畫ノ設定及遂行ニ關スル事項

三、第一條ノ事業ニ要スル資材ノ確保及配分計畫ノ設定及遂行ニ關スル事項

四、第一條ノ事業ニ要スル勞務及資金ノ確保ニ關スル事項

五、鑛産物ニ關スル輸送力ノ確保及荷役ノ合理化ニ關スル事項

六、鑛産物ノ價格ニ關スル事項

七、第一條ノ事業ノ整備確立ニ關スル事項

八、第一條ノ事業ニ於ケル技術ノ向上、能率ノ増進及經理ノ改善ニ關スル事項

六、會員及會員タル團體ヲ組織スル者ノ第一條ノ事業ニ關スル統制指導及檢査ニ關スル事項

七、鑛産物ニ關スル調査及研究ニ關スル事項

十、前各號ニ揭グルモノノ外本會ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事項

第八條　本會ハ事業ノ執行ニ付商工大臣ノ認可ヲ受ケ統制規程ヲ定ム

第三章　役員

第九條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長		一人
理事長		一人
理事		若干人
監事		若干人
評議員		若干人

第十條　會長ハ本會ヲ代表シ第一條ノ事業ノ統制指導其他ノ會務ヲ總理ス

理事長ハ會長ヲ輔佐シ會務ヲ掌理シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ會長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

理事ハ會長及理事長ヲ補佐シ會務ヲ分掌シ豫メ會長ノ定ムル順位ニ依リ會長及理事長共ニ事故アルトキハ會長ノ職務ヲ代理シ會長及理事長共ニ缺員ノトキハ會長ノ職務ヲ行フ

監事ハ本會ノ財産ノ狀況ヲ監査ス

評議員ハ會長ノ諮問ニ對シ答申シ又ハ會長ニ對シ意見ヲ具申ス

第十一條　會長ハ商工大臣ノ命ジタル銓衡委員ノ推薦シタル者ノ中ヨリ商工大臣之ヲ命ズ

理事長及理事ハ第一條ノ事業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ會長之ヲ命ジ商工大臣ノ認可ヲ受クルモノトス

評議員ハ第一條ノ事業ニ關シ經驗アル者及學識アル者ノ中ヨリ會長之ヲ命ズ

監事ハ評議員其ノ過半數ノ同意ニ依リ之ヲ選任ス

第十二條　役員ノ任期ハ左ノ通リトス

會長　三年

理事長　三年

理事　三年

監事　二年

評議員　二年

會長必要アリト認ムルトキハ商工大臣ノ認可ヲ受ケ任期中ト雖モ理事長又ハ理事ヲ解任スルコトヲ得

第十三條　會長、理事長及理事ハ商工大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ

第四章　總會

第十四條　總會ハ定時總會及臨時總會ノ二種トス定時總會ハ毎年一回三月ニ、臨時總會ハ會長必要アリト認ムルトキ之ヲ開催ス

總會ハ會長之ヲ招集ス

第十五條　總會ノ議長ハ會長之ニ當ル會長事故アルトキハ理事長之ニ當リ會長及理事長共ニ事故アルトキハ豫メ會長ノ定ムル順位ニ依リ會長ノ職務ヲ代理スル理事之ニ當ル

第十六條　左ニ掲グル事項ハ總會ニ諮リ會長之ヲ決ス

一、定款ノ變更
二、收支豫算
三、第五條ノ規定ニ依ル賦課金ノ賦課徴收方法

第十七條　會長ハ毎年總會ニ本會ノ事業ノ狀況ヲ報告シ監事ヲシテ財産ノ狀況ヲ報告セシム

第五章　事務局

第十八條　本會ニ事務局ヲ置ク

第十九條　理事長ハ會長ノ指揮監督ヲ受ケ事務局ヲ統理ス

第二十條　前二條ノ外職員其ノ他ノ事務局ニ關スル事項ニ付テハ會長之ヲ定ム

第六章　會計

第二十一條　本會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月末日ニ終ル

第二十二條　前條ノ外會計ニ關スル事項ニ付テハ會長之ヲ定ム

第七章　過怠金

第二十三條　本會ハ統制規程ニ違反シタル會員ニ對シ統制規程ノ定ムル所ニ依リ一万圓以下ノ過怠金ヲ課ス

添附書類ノ二

統制會ノ負擔ニ歸スヘキ創立費及其ノ償却方法（案）

一、創立費　金壹千圓也

一、償却方法　初年度收支豫算ニ計上シ賦課金中ヨリ支辨ス

以上

添附書類ノ三ノ一

鑛山統制會初年度收入豫算（案）（三ケ月分）

一、一般會費	四〇七二五〇圓
二、日本産金振興株式會社	一二五〇〇
帝國鑛業開發株式會社	一二五〇〇
三、鑛山統制組合	六二五〇
四、日本金屬統制株式會社（假稱）	二五〇〇〇
日本鐵鋼統制株式會社	一二五〇
帝國滿俺株式會社	一二五〇
日本貴金屬統制株式會社	一二五〇
合計	四六七二五〇

（備考）

鉱山統制組合会費地方別内訳

東京地方鉱山統制組合		一〇〇〇〇円
仙台	〃	一七五〇〇
大阪	〃	一五〇〇〇
福岡	〃	七五〇〇
札幌	〃	一二五〇〇
計		六二五〇〇

添附書類三ノ二

鉄山統制会初年度経費予算（案）（三ケ月分）

摘要	数量	単価	金額
一 本部費			
イ 報酬費			
会長	一	七〇〇〇〇	一七五〇〇
理事長	一	五〇〇〇〇	一二五〇〇
理事	五	三〇〇〇〇	三七五〇〇
監事	二	一〇〇〇	五〇〇
報酬費計			六八〇〇〇
ロ 給与費			
課長	一五	八〇〇〇	三〇〇〇〇
主事	一六	四〇〇〇	一六〇〇〇
書記	八〇	二五〇〇	五〇〇〇〇
雇傭員	四八	一二〇〇	一四四〇〇
給与費計			一一〇四〇〇
ハ 退職積立金費（給与ノ一割）			一一〇四〇
ニ 借家料	三〇〇坪	月 二五円／坪	二二五〇〇
ホ 事務費			
事務諸費			三七五〇〇
通信費			三七五〇
旅費			一〇〇〇〇
事務費計			五一二五〇
ヘ 備品費			一三〇〇〇
ト 雑費			一一五六〇
本部費計			二八七七五〇
二 支部費			
イ 給与費			
支部長	五	一〇〇〇〇	一二五〇〇
主事	一〇	四〇〇〇	一〇〇〇〇
書記	五〇	二〇〇〇	二五〇〇〇
雇傭員	一〇〇	一〇〇〇	二五〇〇〇
給与費計			七二五〇〇
ロ 退職積立金費（給与ノ一割）			七二五〇
ハ 借家料	一〇〇坪×五	月 一〇円／坪	一五〇〇〇
ニ 事務費			三七五〇〇
ホ 雑費			三七五〇
支部費計			一三六〇〇〇
三 統制組合補助費			一二五〇〇
四 初年度設備費			三〇〇〇〇
五 創立費			一〇〇〇
総計			四六七二五〇

添附書類ノ三ノ三

重要産業團體令第十九條ニ依ル鑛山統制會
ノ初年度經費賦課徴收方法　（案）

鑛山統制會ノ初年度經費ハ左記ノ方法ニ依リ賦課徴收ス
但シ特別法ニ依リ設立セラレタル法人、鑛産物ノ販賣ヲ營ム者、獨立製錬所及試掘ノミヲ爲ス者其ノ他特殊事情アル者ニ對シテハ會長左記ノ方法ニ依ラスシテ會費ヲ徴收シ得ルコト

記

昭和十五暦年度ノ鑛産物販賣價額又ハ之ニ準スヘキ額千圓ニ付キ五圓ノ十二分ノ三ヲ徴ス

極秘

一六鑛第三七一三號

（別紙添附）

昭和十六年十二月十一日

商工次官 椎名悦三郎

陸軍次官 木村兵太郎 殿

先般十二月一日附ヲ以テ鑛山統制會設立委員長男爵伊藤文吉ヨリ別記一ノ通鑛山統制會定款相定度旨ノ又十二月三日附ヲ以テ鑛山統制會會長銓衡委員會ヨリ鑛山統制會會長トシテ日本鑛業株式會社社長従三位勲三等男爵伊藤文吉ヲ推薦致度旨ノ申請有之候處右ニ關スル御意向御回報相煩度此段及協議候也

商工省

第三二號

米二普通合第四五七九號

昭和十六年十二月十三日

外務次官

陸軍次官殿

「ハイチ」共和國ノ宣戰布告ニ關スル件

本件ニ關シ今般「ハイチ」共和國外務大臣ヨリ別紙寫ノ通電報越セルニ付御參考迄右玆ニ送付ス

本信送付先
陸軍、海軍、大藏、商工、拓務、司法、文部、農林、遞信、鐵道、厚生、內務各省次官

別紙添附

陸軍省 16.12.1[illegible] 1873 軍務課

外務省

(日本標準規格B5)

第三三三號

保存期限 三年

決裁指定 局長

決行指定

注意

（本審案用紙ハ三年以内保存ノモノニ使用スルモノトス）

拾年保

受領番號 壹第六二一七號

件名 船員養成施設課程修了者使用申込ニ關スル件

起元廳(課)名 遞信省

政務次官 参與官 回付

決裁前後 連帶課名

決行(決裁)後 回覽課名

大臣 委

政務次官

次官 委

主務局長 代

參與官

高級副官

主務課長

書記官

主務副官

官房御用掛主計

主務課員

審案筆記者 吉田

主務局課				大臣官房	
番號	受領	提出	受領	結了	
運日第九三號	昭和十六年十二月八日	昭和十六年十二月十八日	昭和年十二月十六日	昭和年十二月廿二日	

連帶	決行後回覽(決裁)
局長	局長
課長 船舶 船舶	課長

陸普

副官ヨリ陸軍運輸部長ニ通牒

首題ノ件ニ付別紙寫ノ通遞信省ヨリ通牒アリタルニ付承知相成度

陸普第九一九〇號

昭和拾六年十二月拾九日

（特使）

六二一七

勞第八七二號

昭和十六年十二月五日

遞信次官

陸軍次官殿

船員養成施設課程修了者使用申込ニ關スル件

時局ニ鑑ミ今般遞信省普通海員養成所ニ於ケル卒業期臨時繰上トナリタルニ依リ兒島、小樽及宮古各養成所ニ於ケル現在生徒ハ二月、三月、四月夫々卒業豫定ト相成タルニ付テハ同卒業生ニ對スル使用申込ハ昨年十二月十七日附海第五四一〇號通牒ニ依ル申込期（一月、四月、七月）ニ依ラズ臨時左記ニ依ルコトト相成候條了知ノ上貴所管廳ニ對シ周知方至急取計相成度候

追テ唐津養成所ニ於ケル現在生徒ハ卒業期繰上ニ依リ十二月末卒業

遞信省

日本標準規格B5判

豫定ニシテ之ガ使用申込ハ十一月末日ヲ以テ締切済ニ付爲念

記

養成所別	申込期
兒島海員養成所	十二月末日迄ノコト
小樽 〃	一月末日迄ノコト
宮古 〃	二月末日迄ノコト

遞信省

（丙）

日本標準規格B5判

遞信省經理局印刷

別紙添附

米二普通合第四五八七號

昭和十六年十二月十三日

外務次官

陸軍次官殿

「メキシコ」國ノ對日國交斷絶通告ニ關スル件

本件ニ關シ今般在京「メキシコ」國公使ヨリ別添寫ノ通通報有之タルニ付右茲ニ送付ス

本信送付先　内務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農林、商工、遞信、鐵道、拓務及厚生各次官

企畫院次長

外務省

(日本標準規格B5)

第三五

保存期限	決裁指定	決行指定
三年	局長	

受領番號 壹第六二八五號

政務次官 參與官 回付 決裁前後 連帶課名 参本第四課

件名 航空兼認ニ関スル件

起元廳（課）名 中央氣象台長

決行（決裁）後回覧課名

大臣	政務次官	次官	主務局長
委		委	代

參與官	高級副官	主務課長

書記官	主務副官 官房御用掛主計	主務課員

審案筆記者

主務局課			大臣官房	
番號	受領	提出	受領	結了
防衛甲第六五七號	昭和　年　月　日	昭和拾六年十二月拾七日	昭和　年七月　日	昭和　年十二月廿三日

連帶		決行後回覧（決裁）
局長		局長
課長		課長

注意

（本審案用紙ハ三年以内保存ノモノニ使用スルモノトス）

陸軍

陸普　副官ヨリ出願人ヘ通牒一　經由一

十二月八日附出願首題ノ件（氣秘発第三三六号）許可（兼認）セラレタルニ付軍機保護法施行規則第十八條ニ依リ許可（兼認）證ヲ交付ス

陸普第九一六九號　昭和拾六年十二月拾七日

第三三三號

許可（兼認）證

東京市麹町区大手町一丁目七番地

中央氣象台

一、行為　北海道網走湾ヨリ千島列島ニ亘ル方面一帯ノ結氷竝ニ流氷状態視察ノ為ノ航空

一、場所（區域）　女満別飛行場ヨリ網走湾、千島列島ニ亘ル方面一帯地域

一、本證有效期間　自昭和十七年一月十五日　至昭和十七年四月十五日

一、條件　一、千島列島中北緯五十度以北ノ航空ヲ禁ス

三、必要アリト認ムル場合ハ陸軍官憲ヲ搭乗セシメ若ハ本條件ヲ変更シ又ハ本航空ヲ中止セシムルコトアリ

二、航空実施前ニ北部軍司令官ニ通報スベシ

許可證ハ中原書記官付相談ヲ経テ

防工課

陸普

副官ヨリ北部軍参謀長ヘ通牒

首題ノ件ニ関シ別紙甲號ノ願出アリ乙號通

牒認セラレタルニ付依命通牒ス

陸普第九一六九號

昭和拾六年十二月拾七日

陸軍

氣秘發第三二六號

昭和十六年十二月八日

東京市麴町區大手町一丁目七番地

中央氣象臺長　藤原咲平

陸軍大臣　東條英機殿

航空承認申請書

左記ノ通航空致度軍機保護法施行規則第五條及第十二條ノ規定ニ依リ承認相成度候也

左記

一、目的　北海道網走灣ヨリ千島列島ニ亘ル方面一帶ノ結氷並ニ流氷狀態ヲ視察シ東北地方ノ凶冷調査ニ資スル爲

二、出發地　北海道網走郡女満別村女満別飛行場

期間　昭和十七年一月中旬ヨリ四月中旬マデノ期間ニ於テ天氣良好ノ日ニ限リ隨時

三、通過地　女満別飛行場ヨリ網走灣、千島列島ニ亘ル方面一帶ノ地域ニシテ無着陸往復約六時間ノ飛行範圍

四、到着地　北海道網走郡女満別村女満別飛行場

到着豫定日時　出發地出發ノ都度出發後約六時間後

五、航空機ノ種類　飛行機

機體ノ型式　三菱式八九型

六、發動機ノ型式及馬力　イスパノスイザ式　六五〇馬力

七、國籍記號、登錄記號

中央氣象臺

J-AAME

八、乘員ノ現住地、氏名

静岡縣清水市三保之松原出來輪田二二〇二番地

根岸錦藏

静岡縣清水市三保之松原出來輪田二二〇二番地

小田勇

静岡縣清水市三保之松原出來輪田二二〇二番地

川島東作

乘員ノ技倆證明及免狀ノ種類

別紙寫ノ通リ

九、其ノ他參考ト爲ルベキ事項

イ、冬期**オホーツク**海方面ヨリ千島列島及北海道太平洋岸へ流出スル結氷ノ多寡ハ直チニ北海道、東北地方ノ氣象狀態ニ影響スルモノナルガ故ニ之ヲ豫知シ東北地方ノ凶冷調査竝ニ之ガ對策ニ資センドスルモノナリ

ロ、乗員根岸錦藏ハ當臺囑託ニシテ當臺三保臨時出張所ニ勤務シ飛行機ニ依ル氣象觀測ニ從事シツヽアリ、操縦、撮影ニ當ラシム

小田勇、川島東作兩名ハ本臺囑託竝ニ雇ニシテ當臺三保臨時出張所ニ勤務シ飛行機ニ依ル氣象觀測ノ補助ニ從事シツヽアリ今般女滿別飛行場ニ出張ノ上右ノ飛行機ニ搭乘セシメ結氷竝ニ流氷狀態ノ視察撮影ヲ補助セシム

ハ、本計畫ハ累年繼續シ、航空竝ニ撮影ノ承認ヲ受ケ實施セルトコロニシテ明年亦繼續實施セントスルモノナリ

以上

根岸錦藏

小田　勇

川島東作

第一〇四號

壹等飛行機操縦士免狀寫

本籍　東京市日本橋區小舟河岸七番地
住所　靜岡縣清水市三保之松原出來輪田二、二〇二

寫眞

根岸錦藏
明治三十五年三月二十四日生

右者壹等飛行機操縦士技倆證明書ヲ受有シ且成規ノ体格検査ニ合格シタリ依テ左記飛行機ニ付壹等飛行機操縦士タルコトヲ免許ス

昭和三年五月二十八日

遞信省印

記

ニユーポール式二四型、ニユーポール式八三型、中島式五型　昭和三年五月二十八日
モラヌソルニエ式A一型、三菱式R一、二型
アブロ式五〇四K型　昭和三年九月十七日

三菱式R四A型	昭和四年五月十七日
三菱式F一B一型	昭和五年二月二十七日
ニューポール式八一型	昭和六年六月十三日
三菱式R二、二型	昭和七年八月二十七日
ニューポール式二九型	昭和九年二月二十二日
三菱式T一二型改造	昭和十一年五月十九日
ブリストル式ゲームコック型	昭和十一年十二月八日
中島式九〇型	昭和十五年十二月二十八日
八九式艦上攻撃機	昭和十六年六月十二日

制限事項　ナシ

体格検査成績		有効期間
合格	昭和十六年十一月廿七日	自昭和十六年十一月十六日 至昭和十七年五月十五日

逓信省

中央氣象臺

第一〇八號

壹等飛行機操縱士技倆證明書寫

本籍　東京市日本橋區本船町十九番地

根岸　錦藏

明治三十五年三月二十四日生

寫眞

右者成規ノ實地試驗及學科試驗ニ合格シタリ依テ左記飛行機ニ付壹等飛行機操縱士タルノ技倆ヲ有スルモノト認定ス

昭和三年五月二十六日

遞信省　印

記

飛行機	認定年月日
ニューポール式二四型、ニューポール式八三型 中島式五型	昭和三年五月二十六日

モラヌソルニエA壹型、三菱式R一、二型	昭和三年五月二十六日
アブロ式五〇四K型	昭和三年九月十七日
三菱式R四A型	昭和四年五月十七日
三菱式F一B一型	昭和五年二月二十七日
ニューポール式八一型	昭和六年六月十三日
三菱式R二型	昭和七年八月二十七日
ニューポール式二九型	昭和九年二月二十二日
三菱式T一二型改造	昭和十一年五月十九日
ブリストル式ゲームコック型	昭和十一年十二月九日
中島式九〇型	昭和十五年十二月二十八日
八九式艦上攻撃機	昭和十六年六月十二日

以上

陸軍

氣秘發第三二六號

昭和十六年十二月八日

東京市麹町區大手町一丁目七番地

中央氣象臺長 藤原咲平

陸軍大臣 東條英機 殿

航空承認申請書

左記ノ通航空致度軍機保護法施行規則第五條及第十二條ノ規定ニ依リ承認相成度候也

左記

一、目的 北海道網走ヨリ千島列島ニ亘ル方面一帯ノ結氷並ニ流氷状態ヲ視察シ東北地方ノ凶冷調査ニ資スル爲

二、出發地 北海道網走郡女満別村女満別飛行場

期　間　昭和十七年一月中旬ヨリ四月中旬マデノ期間ニ於テ天氣良好ノ日ニ限リ隨時

三、通過地　女滿別飛行場ヨリ網走經、千島列島ニ亘ル方面一帶ノ地域ニシテ無着陸往復約六時間ノ飛行範圍

四、到着地　北海道網走郡女滿別村女滿別飛行場

到着豫定日時　出發地出發ノ都度出發後約六時間後

五、航空機ノ種類　飛行機

機體ノ型式　三菱式八九型

六、發動機ノ型式及馬力

イスパノスイザ式　六五〇馬力

七、國籍記號、登錄記號

J—AAME

八、乘員ノ現住地、氏名

靜岡縣清水市三保之松原出來輪田二二〇二番地

根岸錦藏
靜岡縣清水市三保之松原出來輪田二二〇二番地
小田勇
靜岡縣清水市三保之松原出來輪田二二〇二番地
川島東作

乗員ノ技倆證明及免狀ノ種類

別紙寫ノ通リ

以上

九、其ノ他參考ト爲ルベキ事項

イ、冬期オホーツク海方面ヨリ千島列島及北海道太平洋岸ヘ流出スル結氷ノ多寡ハ直チニ北海道、東北地方ノ氣象狀態ニ影響スルモノナルガ故ニ之ヲ豫知シ東北地方ノ凶冷調査竝ニ之ガ對策ニ資セントスルモノナリ

ロ、乗員根岸錦藏ハ當臺囑託ニシテ當臺三保臨時出張所ニ勤務シ飛行機ニ依ル氣象觀測ニ從事シツヽアリ、操縱、撮影ニ當ラ

シム

ロ、小田勇、川島東作兩名ハ本廳嘱託並ニ雇ニシテ當廳ニ係臨時出張所ニ勤務シ飛行機ニ依ル氣象觀測ノ補助ニ從事シツヽアリ今般女滿別飛行場ニ出張ノ上右ノ飛行場ニ搭乘セシメ結氷並ニ流氷狀態ノ視察撮影セシム

ハ、本計畫ハ累年繼續シ航空並ニ撮影ノ承認ヲ受ケ實施セルトコロニシテ明年亦繼續實施セントスルモノナリ

以上

第一〇四號

壹等飛行機操縱士免状寫

本籍　東京市日本橋區小舟河岸七番地

住所　靜岡縣清水市三保之松原出水輪田一、二〇二

寫眞

根岸錦藏

明治三十五年三月二十四日生

右者壹等飛行機操縱士技倆證明書ヲ受有シ且成規ノ體格檢査ニ合格シタリ依テ左記飛行機ニ付壹等飛行機操縱士タルコトヲ免許ス

昭和三年五月二十八日

遞信省

記

ニユーポール式二四型、ニユーポール式八三型、中島式五型

モラヌソルニエ式A一型、三菱式R一、二型

アヴロ式五〇四K型

昭和三年五月二十八日

アブロ式五〇四K型	昭和三年九月十七日
三菱式R四A型	昭和四年五月十七日
三菱式F一B一型	昭和五年二月二十七日
ニユーポール式八一型	昭和六年六月十三日
三菱式R二、二型	昭和七年八月二十七日
ニユーポール式二九型	昭和九年二月二十二日
三菱式T一二型改造	昭和十一年五月十九日
ブリストル式ゲームコツク型	昭和十一年十二月八日
中島式九〇型	昭和十五年十二月二十八日
八九式艦上攻撃機	昭和十六年六月十二日

制限事項　ナシ

體格検査成績　有効期間

合格　昭和十六年十一月廿七日　自昭和十六年十一月十六日　至昭和十七年五月十五日

逓信省

第一〇八號

壹等飛行機操縱士技倆證明書寫

本籍　東京市日本橋區本船町十九番地

根岸錦藏

明治三十五年三月二十四日生

右者成規ノ實地試驗及學科試驗ニ合格シタリ依テ左記飛行機ニ付壹等飛行機操縱士タルノ技倆ヲ有スルモノト認定ス

昭和三年五月二十六日

遞信省 印

記

飛行機	認定年月日
ニユーポール式二四型、ニユーポール式八三型	昭和三年五月二十六日
中島式五型	
モラヌソルニエA壹型、三菱式R一、二型	昭和三年五月二十六日

陸軍

アブロ式五〇四K型
三菱式R四A型
三菱式F一B一型
ニューポール式八一型
三菱式R二二型
ニューポール式二九型
三菱式T一二型改造
ブリストル式ゲームコック型
中島式九〇型
八九式艦上攻撃機

昭和三年九月十七日
昭和四年五月十七日
昭和五年二月二十七日
昭和六年六月十三日
昭和七年八月二十七日
昭和九年二月二十二日
昭和十一年五月十九日
昭和十一年十二月九日
昭和十五年十二月二十八日
昭和十六年六月十二日

以上

氣祕發第三二六號

昭和十六年十二月八日

東京市麴町區大手町一丁目七番地

中央氣象臺長　藤原咲平

陸軍大臣　東條英機殿

航空承認申請書

左記ノ通航空致度軍機保護法施行規則第五條及第十二條ノ規定ニ依リ承認相成度候也

左記

一、目的　北海道網走灣ヨリ千島列島ニ亘ル方面一帶ノ結氷竝ニ流氷狀態ヲ視察シ東北地方ノ凶冷調査ニ資スル爲

二、出發地　北海道網走郡女満別村女満別飛行場

陸軍

二、期間　昭和十七年一月中旬ヨリ四月中旬マデノ期間ニ於テ天氣良好ノ日ニ限リ随時

三、通過地　女満別飛行場ヨリ網走郡、千島列島ニ亘ル方面一帯ヲ地域ニシテ無著陸往復約六時間ノ飛行範圍

四、到著地　北海道網走郡女満別村女満別飛行場

到著豫定日時　出發地出發ノ都度出發後約六時間後

五、航空機ノ種類　飛行機

機體ノ型式　三菱式八九型

六、發動機ノ型式及馬力

イスパノスイザ式　六五〇馬力

七、國籍記號、登錄記號

J—AAME

八、乘員ノ現住地、氏名

静岡縣清水市三保之松原出來輪田二二〇二番地

根岸錦藏
靜岡縣清水市三保之松原出來輪田二二〇二番地
小田勇
靜岡縣清水市三保之松原出來輪田二二〇二番地
川島東作

乘員ノ技倆證明及免狀ノ種類
別紙寫ノ通リ

九、其ノ他參考ト爲ルベキ事項
イ、冬期オホーツク海方面ヨリ千島列島及北海道太平洋岸へ流出スル結氷ノ多寡ハ直チニ北海道、東北地方ノ氣象狀態ニ影響スルモノナルガ故ニ之ヲ豫知シ東北地方ノ凶冷調査並ニ之ガ對策ニ資セントスルモノナリ
ロ、乘員根岸錦藏ハ當臺囑託ニシテ當臺三保臨時出張所ニ勤務シ飛行機ニ依ル氣象觀測ニ従事シツヽアリ、操縦、撮影ニ當ラ

シム

小田勇、川島東作兩名ハ本臺囑託並ニ雇ニシテ當臺三保臨時出張所ニ勤務シ飛行機ニ依ル氣象觀測ノ補助ニ從事シツヽアリ今般女滿別飛行場ニ出張ノ上右ノ飛行場ニ搭乘セシメ結氷並ニ流氷狀態ノ視察撮影セシム

ハ、本計畫ハ累年繼續シ、航空並ニ撮影ノ承認ヲ受ケ實施セルトコロニシテ明年亦繼續實施セントスルモノナリ

以上

第一〇四號

壹等飛行機操縦士免狀寫

本籍　東京市日本橋區小舟河岸七番地

住所　靜岡縣清水市三保之松原出來輪田二、二〇二

寫眞

根岸錦藏

明治三十五年三月二十四日生

右者壹等飛行機操縦士技倆證明書ヲ受有シ且成規ノ體格検査ニ合格シタリ依テ左記飛行機ニ付壹等飛行機操縦士タルコトヲ免許ス

昭和三年五月二十八日

遞信省印

記

ニユーポール式二四型、ニユーポール式八三型、中島式五型

モラヌソルニエ式A一型、三菱式R一、二型

昭和三年五月二十八日

陸軍

アブロ式五〇四K型　昭和三年九月十七日
三菱式R四A型　昭和四年五月十七日
三菱式F一B一型　昭和五年二月二十七日
ニユーポール式八一型　昭和六年六月十三日
三菱式R二、二型　昭和七年八月二十七日
ニユーポール式二九型　昭和九年二月二十二日
三菱式T一二型改造　昭和十一年五月十九日
ブリストル式ゲームコツク型　昭和十一年十二月八日
中島式九〇型　昭和十五年十二月二十八日
八九式艦上攻擊機　昭和十六年六月十二日

制限事項　ナシ

體格檢查成績有効期間

合格　昭和十六年十一月廿七日　自昭和十六年十一月十六日
至昭和十七年五月十五日　遞信省

第一〇八號

壹等飛行機操縦士技倆證明書寫

本籍 東京市日本橋區本船町十九番地

根岸錦藏

明治三十五年三月二十四日生

右者成規ノ實地試驗及學科試驗ニ合格シタリ依テ左記飛行機ニ付壹等飛行機操縦士タルノ技倆ヲ有スルモノト認定ス

昭和三年五月二十六日

遞信省

記

飛行機

ニューポール式二四型、ニューポール式八三型

中島式五型

モラヌソルニヱA壹型、三菱式R一、二型

認定年月日

昭和三年五月二十六日

昭和三年五月二十六日

陸軍

アブロ式五〇四K型	昭和三年九月十七日
三菱式R四A型	昭和四年五月十七日
三菱式F一B一型	昭和五年二月二十七日
ニューポール式八一型	昭和六年六月十三日
三菱式R二二型	昭和七年八月二十七日
ニューポール式二九型	昭和九年二月二十二日
三菱式T一二型改造	昭和十一年五月十九日
ブリストル式ゲームコック型	昭和十一年十二月九日
中島式九〇型	昭和十五年十二月二十八日
八九式艦上攻撃機	昭和十六年六月十二日

以上

大三

醫學機密第二〇號ノ一二

昭和十六年機密圖書現有調書

海軍軍醫學校

圖書名	番號	一貫番號	數量
滿洲事変陸軍衛生史第一巻	秘		一
同 右第七巻	秘	六三	一
同 右續編	秘	六三	一
同 右第二巻	軍事秘密		一

機密書類取扱規則ニ依リ通牒ス

昭和十六年十二月一日

海軍軍醫學校副官 南里

陸軍大臣官房圖書保管主任殿

16.11.29

16.11.28

16.11.29

海軍

第三七號

拾年保

陸軍省受領 壹第六三八四號

一六馬第二一七四八號

昭和十六年十二月十六日

馬政局長官

陸軍大臣殿

外地移植馬ニ關スル協議會開催ニ關スル件

昭和十七年度ニ於テ外地ニ移植スベキ馬ノ數及其ノ取扱等ニ關スル協議會ヲ來ル十九、二十日ノ兩日當局ニ於テ開催致度ニ付關係官派遣相成度尚朝鮮及臺灣軍ニ對シテモ係官派遣方可然御取計相成度此段及依頼候也

[redacted]

號三八號

保存期限	十年	決裁指定	局長	決行指定

拾 政務參與官 回付 決裁 前 後 連帶課名

受領番號	壹第六四二七號
件名	陸軍現役兵ヲ海軍武官ニ任用ノ件
起元廳(課)名	海軍省

大臣 委任

政務次官

次官 委任

主務局長

參與官

高級副官

主務課長

書記官

主務副官

官房御用掛主計

主務課員

審案筆記者

主務局課			大臣官房	
番號	受領	提出	受領	結了
兵備第一四六號	昭和 年 月 日	昭和十六年十一月二十二日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日

連帶	決行後(決裁)回覽
局長	局長
課長	課長

決行(決裁)後回覽課名

副官ヨリ留守近衛、同第三、同第五師團

参謀長宛通牒案

陸密

左記者ハ海軍二年現役主計科士官ヲ志願シ採用ノコトニ内定シアルニ付昭和十七年一月十五日午前八時三十分迄ニ海軍經理學校ニ出頭セシムル様取計相成度

左記

任用区分	所屬部隊	氏名
海軍主計中尉	東部第十二部隊小林隊	池田弘
同	中部第三部隊倉隊	菅谷秀夫

×同

西部第十部隊一大村筆雄

陸密第三九二一號

昭和拾六年十二月廿貳日

編製上ノ注意

●印ノ者ハ留守第三師團、×印ノ者ハ留守第五師團

宛テノミ記載ノコト

官房第六五五一號

昭和十六年十二月十七日

海軍大臣　嶋田繁太郎

陸軍大臣　東條英機殿

陸軍現役兵ヲ海軍武官ニ任用ノ件照會

陸軍現役兵トシテ入營中ノ左記ノ者海軍二年現役主計科士官ヲ志願シ採用ノコトニ内定致候條可然御取計相成度

追テ任官ハ昭和十七年一月二十日ノ豫定ニシテ同十五日午前八時三十分迄ニ海軍經理學校ニ出頭セシメラレ度

記

任等	所屬	氏名
海軍主計中尉	世田谷區東部第十二部隊小林隊	池田弘

近衛野砲兵聯隊

陸軍省 16.12.20 大臣官房

陸軍省 16.12.19 第146号 兵備課

海軍主計中尉　静岡市追手町　菅谷秀夫
　　　　　　　静岡中部第三部隊原隊

同　　　　　　西部第十部隊　　大村筆雄

（終）

[redacted]

第三九號

保存期限	決裁指定	決行指定
十年	局長	

拾年保

政務次官 參與官 回付	決裁前 後
適帶課名	軍事課
受領番號	壹第[illegible]號
件名	防空實施ニ關スル件
起元廳(課)名	海軍省
決行(決裁)後回覽課名	

陸軍

大臣	委
次官	委
政務次官	
主務局長	
參與官	
高級副官	
主務課長	
書記官	
主務副官	
主 官房御用掛 計	
審案 年記者	

番號	受領	發出
防衛甲第六六七號	昭和十六年十二月十九日	昭和十六年十二月二十二日

受領 昭和 年 十二月廿三日

決行(決裁)後回覽

局長 局長

課長 課長

陸密　次官ヨリ防衛總参謀長、参謀次長ヘ通牒

海軍ニ於テハ海軍防空擔任地區ノ防空實施ニ關シ別紙寫ノ通通牒シタル旨通牒アリタルニ付承知相成度

追テ本件北部軍司令部ニハ當方ヨリ通牒濟ニ付申添フ

陸支密第四七四六號　昭和拾六年十二月廿貳日

注意　参謀次長宛ニハ追書ヲ削ル

陸密　副官ヨリ北部軍参謀長ヘ通牒

（前文ニ仝シ　但シ追書ヲ除ク）

陸支密第四七四六號　昭和拾六年十二月廿貳日

陸軍大臣

軍極秘

六四二八

官房機密第一一九六九號

昭和十六年十二月十六日

海軍大臣　嶋田繁太郎

内務大臣　東條英機殿
遞信大臣　寺島　健殿
農林大臣　井野碩哉殿
鐵道大臣　八田嘉明殿
拓務大臣　井野碩哉殿

防空實施ニ關スル件通牒

首題ノ件左記ニ依リ追加實施ノコトニ取計相成度

記

一、開始時期
本通牒受領後成ルベク速ニ

二、追加實施スベキ地域

十二月十六日送付

16.12.20

16.12.19
防衛課

海軍

大湊警備府所管海軍防空擔任地區

三、實施スベキ業務

差當リ防空監視通信

（寫送付先　陸軍大臣）

（終）

海軍

（森市納）

陸軍

拾年保

保存期限	決裁指定	決行指定
三年	局長委任	

第四九號

政務次官 参与官 回付	
決裁前/後 連帯課名	
受領番號	壹第六二五六號
件名	軍用資源秘密保護法ノ撮影ニ関スル件
起元庁（課）名	鐵道省
決行 決裁後 回覧課名	

大臣　委

次官　委

主務局長

高級副官

主務課長

主務副官

官房御用掛主計

主務課員

審案筆記者

主務局課 番號	防衛甲第六七〇號
受領	昭和　年　月　日
提出	昭和拾六年十二月廿貳日
大臣官房 受領	昭和　年　月　日　十二月廿三日
結了	昭和　年　月　日　十二月廿六日
決裁後	大臣ヨリ回答

連帯局長

局長

課長

大臣ヨリ回答ヲ以テ閣議ニ於ル首肯ノ上

陸密

大臣ヨリ鐵道大臣ヘ回答

十二月八日附鐵軍秘第三一四號ヲ以テ協議ニ係ル首題ノ件當方ニ於テハ貴條件ニテ許可相成差支無之此段及回答候

陸密第三九三〇號

昭和拾六年十二月廿参日

陸密

副官ヨリ下関要塞司令官ヘ通牒

首題ノ件ニ関シ別紙寫ノ通協議アリタル處許可シ差支無キ旨回答セラレタルニ付承知相成度

陸密第三九三〇號

昭和拾六年十二月廿参日

寫

別紙

陸軍

鐵軍秘第三一四號

昭和十六年十二月八日

鐵道大臣　八田嘉明

陸軍大臣　東條英機　殿

海軍大臣　嶋田繁太郎　殿

（連名各通）

軍用資源秘密保護法ノ撮影ニ關シ別紙願出有之候處左記條件ヲ附スルニ於テハ支障無キモノト被認候條許可ノコトト致度此段及協議候

記

許可條件

一、努メテ構内施設物ヲ撮影セザルコト

二、撮影ノ成果物ハ其ノ公開以前ニ於テ門司鐵道局長ノ檢閲ヲ經ル

コト
前項ノ檢閲ヲ受ケタルモノハ其ノ公開ノ際「鐵道省檢閲濟」ト表示スルコト
三、右成果物ニシテ公開不適當ト認メラルルモノアルトキハ之ヲ沒收ス

撮影許可願

本籍　富山縣中新川郡滑川町寺家二〇番地
住所　福岡市西新町汐入二〇六三番地ノ六
職業　株式會社　九州日報社
代表者　佐佐政德　五十八才

昭和拾六年拾壹月拾五日

鐵道大臣　寺島健殿

左記ノ通撮影致度ニ付許可相成度候也

左記

一、目的　當社發行ノ新聞紙上ニ掲載ノタメ

二、工場事業場其ノ他ノ設備ノ所在地及名稱

門司、大里、小倉、吉塚、鳥栖、外濱、門司港ノ各驛

陸軍

三、區域　　前記厰構内

四、期間　　自昭和拾六年拾貳月壹日
　　　　　　至昭和拾七年拾壹月參拾壹日

五、方法　　寫眞撮影

六、使用器具類ノ名稱　　パルモス機　大名刺型

七、作業者ノ住所氏名　　福岡市東職人町六〇
　　　　　　　　　　　　松尾俊道　三十八才

八、作業ノ場所　　福岡市天神町貳拾八番地
　　　　　　　　　株式會社　九州日報社内

九、成果物ノ用途　　新聞掲載　二枚

撮影許可願

本籍　富山縣中新川郡滑川町寺家二〇番地
住所　福岡市西新町汐入二〇六三番地ノ六
職業　株式會社　九州日報社
代表者　佐佐　政德　五十八才

昭和拾六年拾壹月拾五日

鐵道大臣　寺島　健　殿

左記ノ通撮影致度ニ付許可相成度候也

左　記

一、目的　當社發行ノ新聞紙上ニ掲載ノタメ

二、工場事業場其ノ他ノ設備ノ所在地及名稱

門司、大里、小倉、吉塚、鳥栖、外濱、門司港ノ各驛

陸軍

三、區　域　前記驛構內

四、期　間　自昭和拾六年拾貳月壹日
至昭和拾七年拾壹月參拾壹日

五、方　法　寫眞撮影

六、使用器具類ノ名稱　パルモス機　大名刺型

七、作業者ノ住所氏名　福岡市長濱町貳拾八番地
山口眞郎　二十八才

八、作業ノ場所　福岡市天神町貳拾八番地
株式會社　九州日報社內

九、成果物ノ用途　新聞掲載　二枚

陸軍

撮影許可願

本籍　富山縣中新川郡滑川町寺家二〇番地
住所　福岡市西新町汐入二〇六三番地ノ六
職業　株式會社　九州日報社
代表者　佐佐　政德　五十八才

昭和拾六年拾壹月拾五日

鐵道大臣　寺島　健　殿

左記ノ通撮影致度ニ付許可相成度候也

左　記

一、目　的　當社發行ノ新聞紙上ニ掲載ノタメ
一、工場事業場其ノ他ノ設備ノ所在地及名稱
門司、大里、小倉、吉塚、鳥栖、外濱、門司港ノ各驛

三、區　域　前記要塞地帯内小倉、吉田、[illegible]、門司港ノ各地

四、期　間　自昭和拾六年拾貳月壹日
至昭和拾七年拾壹月参拾壹日

五、方　法　寫眞撮影

六、使用器具類ノ名稱　パルモス機　大名刺型

七、作業者ノ住所氏名　福岡市長濱町一丁目廿番地
山戸正次　二十五才

八、作業ノ場所　福岡市天神町貳拾八番地
株式會社　九州日報社内

九、成果物ノ用途　新聞掲載　二枚

撮影許可願

本籍　富山縣中新川郡滑川町寺家二〇番地
住所　福岡市西新町汐入二〇六三番地ノ六
職業　株式會社　九州日報社
　　　代表者　佐佐佐政德　五十八才

昭和拾六年拾壹月拾五日

鐵道大臣　寺島健殿

左記ノ通撮影致度ニ付許可相成度候也

記

一、目的　當社發行ノ新聞紙上ニ掲載ノタメ

二、工場　事業場其ノ他ノ設備ノ所在地及名稱

門司、大里、小倉、吉塚、鳥栖、外濱、門司港ノ各驛

陸軍

三、區域　前記驛構内

四、期間　自昭和拾六年拾貳月壹日
至昭和拾七年拾壹月參拾壹日

五、方法　寫眞撮影

六、使用器具類ノ名稱　パルモス機　大名刺型

七、作業者ノ住所氏名　門司市清瀧町　九州日報門司支局内
金平弘　二十才

八、作業ノ場所　門司市清瀧町　九州日報門司支局内

九、成果物ノ用途　新聞掲載　二枚

陸軍

撮影許可願

本籍 富山縣中新川郡滑川町寺家二〇番地

住所 福岡市西新町汐入二〇六三番地ノ六

職業 株式會社 九州日報社

代表者 佐佐政德 五十八才

昭和拾六年拾壹月拾五日

鐵道大臣 寺島健殿

左記ノ通撮影致度ニ付許可相成度候也

左記

一、目的 當社發行ノ新聞紙上ニ掲載ノタメ

一、場所 事業場其ノ他ノ設備ノ所在地及名稱

門司、大里、小倉、吉塚、鳥栖、外濱、門司港ノ各驛